

| | | | | | | | | |
|---------------|---|------|----------------|------------------|-------------------|----------|-----|----|
| 授業科目 | * 診療関連技術論演習 | | | | 単位 | 1 | | |
| 履修 | 必修 | 関連資格 | 高一種免(看護) 養教一種免 | | ナンバリング | NU11206J | | |
| 開講年次 | 2年 | 開講時期 | 前期 | 該当DP | DP1-2 DP2-1 DP4-2 | | | |
| 担当教員 | 隅田 由加里、小田 日出子、金山 正子 | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>【実務家教員担当科目】 人間は疾病の発症や障害によって、様々な診療(検査・治療)を受ける必要があり、それは患者の健康の回復・増進を目的に行われる。診療の補助として行われる看護技術が安全・安楽に提供できるよう、科学的根拠と医療安全の視点を踏まえて、必要な基礎的な知識を深め、看護援助の技術習得に努める。授業は診療関連技術項目(「呼吸を楽にする技術」「体温を調節する技術」「検査を安全に行う技術」「与薬・輸血を安全に行う技術」「皮膚・創傷を管理する技術」)別に講義・演習を実施する。</p> <p>実務家教員として、20年以上にわたり大学病院の胸部・腹部外科病棟や循環器病棟で、様々な診療関連技術を患者に提供してきた経験をもつ。このため診療関連技術は医療行為の一部であり、医療事故にもつながる侵襲のある看護技術であることを念頭におき、まずは講義によって、基礎的知識(目的、根拠、留意点等)を深める。その後、臨床現場で実際に使用されている機器等を使用し、演習記録を軸に「実践する」「書く」「話す」「披露する」という演習を通して、基本的技術の習得を目指す。また同時に厚生労働省の「医療安全情報」等を活用し、具体的な事例を提示し教授することで、学習者の医療安全の意識向上を図る。</p> | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | <p>【知識・理解】 1. 検査・処置・治療を安全に実施するために必要な基礎的知識を修得することができる。</p> <p>【思考・判断】 1. 安全かつ正確に診療に関する基本的援助技術を実施するため、論理的に思考・判断することができる。</p> <p>【態度】 1. 講義で修得した基礎的知識を活用し、安全かつ正確に診療に関する基本的援助技術を実施する姿勢を身に着けている。</p> | | | | | | | |
| 達成度評価 | | | | | | | | |
| 評価と評価割合／評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
| 総合評価割合 | 60 | 0 | 0 | 0 | 10 | 30 | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-1) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-2) | 60 | | | | | | 60 | |
| 知識・理解 (DP1-3) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-4) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-1) | | | | | 10 | | 10 | |
| 思考・判断 (DP2-2) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-1) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-1) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-2) | | | | | | 30 | 30 | |
| 態度 (DP4-3) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-1) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-2) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-3) | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | |
| 理想的レベル | | | | 標準的なレベル | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>【知識・理解】 1. 検査・処置・治療を安全に実施するために必要な基礎的知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を、論理的に記述することができる。 【思考・判断】 1. 安全かつ正確に診療に関する援助技術を実施するため、科学的根拠に基づいて論理的に基本的援助技術方法を選択することができる。</p> <p>【態度】 1. 講義で修得した基礎的知識を活用し、安全かつ正確に診療に関する基本的援助技術を実施することができる。1)実施前・実施中・実施後に、患者の観察を行い比較することができる。</p> | <p>【知識・理解】 1. 検査・処置・治療を安全に実施するために必要な基礎的知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を説明することができる。</p> <p>【思考・判断】 1. 安全に診療に関する援助技術を実施するため、科学的根拠に基づいて、基本的援助技術方法を考えることができる。</p> <p>【態度】 1. 講義で修得した基礎的知識を活用し、安全に診療に関する基本的援助技術を実施することができる。 1)実施前・実施中・実施後に患者の観察ができる。 2)準備と後片付けができる。 3)安全・安楽に注意して看護技術が実施できる。</p> |
|---|---|

授業計画

| 進行 | テーマ・講義内容 | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) | 予習・復習時間(分) |
|----|---|---|---|------------|
| 1 | <p>【呼吸を楽にする技術①】 * 以下を1コマで実施する (講義：隅田由加里) 講義： ・呼吸の生理学的メカニズム ・呼吸のニーズに関するアセスメント ・呼吸を楽にする援助(効率的な呼吸方法、痰を喀出させる方法、吸入療法、吸引、酸素療法)</p> | <p>・授業進行表を用いて講義・演習のオリエンテーションを実施する。 ・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。</p> | <p>【予習】 1. 予習課題に取り組む 2. 看護形態機能学の復習：呼吸器系を再学習する。 3. 教科書の該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる</p> <p>【復習】 1. 配布した資料をもとに教科書の該当箇所を復習し、ポートフォリオにまとめる。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。</p> | 【予習・復習】90分 |
| 2 | <p>【呼吸を楽にする技術②】 * 以下を2コマで実施する (演習：隅田由加里、看護学科教員) 演習： ・酸素吸入の援助技術の実施 ・噴霧吸入の援助技術の実施 ・口腔・鼻腔吸引の援助技術の実施</p> | <p>・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2～4名一組となり演習を行う。 ・Aクラスは「吸入療法、酸素吸入」を、Bクラスは「口腔・鼻腔吸引」を、演習記録に基づいて実施し、その後、代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> | <p>【予習】 1. 動画視聴 2. 前回の授業の資料をはじめ、該当箇所を読み、ポートフォリオの振り返り、および加筆を行う</p> <p>【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p> | 【予習・復習】90分 |
| 3 | <p>【呼吸を楽にする技術②】 * 以下を2コマで実施する (演習：隅田由加里、看護学科教員) 演習： ・酸素吸入の援助技術の実施 ・噴霧吸入の援助技術の実施 ・口腔・鼻腔吸引の援助技術の実施</p> | <p>・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2～4名一組となり演習を行う。 ・Bクラスは「吸入療法、酸素吸入」を、Aクラスは「口腔・鼻腔吸引」を、演習記録に基づいて実施し、その後、</p> | <p>【予習】 1. 動画視聴 2. 前回の授業の資料をはじめ、該当箇所を読み、ポートフォリオの振り返り、および加筆を行う。</p> <p>【復習】 1. 演習記録の課題に取り組み、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。</p> | 【予習・復習】90分 |

| | | | | |
|---|--|---|--|------------|
| | | 代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。 | 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。 | |
| 4 | <p>【体温を調節する技術】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・体温調節について ・電法について</p> <p>演習： ・電法の援助技術(冷電法、温電法)の実施</p> | <p>講義： テキストとスライドによる説明を行う。 ・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2～4名一組となり、「冷電法」「温電法」を、演習記録に基づいて実施し、その後、代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> | <p>【予習】</p> <p>1. 予習課題に取り組む 2. 看護形態機能学の復習：体温調節に関する再学習をする。 3. 教科書の該当箇所を読み、整理した基礎知識を「自己学習ノート」にまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p> | 【予習・復習】90分 |
| 5 | <p>【皮膚・創傷を管理する技術】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・創傷の分類と治癒過程 ・褥瘡の管理 ・創傷の管理</p> <p>演習： ・創傷管理(創傷処置、包帯法)の実施</p> | <p>・講義：テキストとスライドによる説明を行う。 ・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2名一組となり、「創傷管理と包帯法、三角筋装着」を、演習記録に基づいて実施し、その後代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> | <p>【予習】</p> <p>1. 予習課題に取り組む 2. 看護形態機能学等の復習：皮膚に関する領域、栄養に関する領域、感染対策、滅菌操作に関する単元を再学習する。 3. 教科書の該当箇所を読み、整理した基礎知識を「自己学習ノート」にまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p> | 【予習・復習】90分 |
| 6 | <p>【検査を安全に行う技術】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： ・検査における看護師の役割 ・代表的な検査と実施時の注意点 ・静脈血採血の基礎知識</p> <p>演習： 静脈血採血の実施</p> | <p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。 ・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2名一組となり、「静脈血採血」を、演習記録に基づいて実施し、その後、代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> | <p>【予習】</p> <p>1. 予習課題に取り組む 2. 看護形態機能学の復習：血管系を再学習する。 3. 教科書の該当箇所を読み、整理した基礎知識を「自己学習ノート」にまとめる。</p> <p>【復習】</p> <p>1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。</p> | 【予習・復習】90分 |
| 7 | <p>【与薬・輸血を安全に行う技術①】</p> <p>* 以下を1コマで実施する</p> | <p>・講義：テキストとスライドを使用し説明</p> | <p>【予習】</p> <p>1. 予習課題に取り組む</p> | 【予習・復習】90分 |

| | | | | |
|----|--|---|--|------------|
| | <p>(講義：隅田由加里)</p> <p>講義： <ul style="list-style-type: none"> ・与薬とは ・与薬における法的根拠 ・与薬のための基礎知識 ・与薬のための援助技術(経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬) ・注射のための基礎知識 </p> | <p>を行う。</p> | <p>2. 看護形態機能学等の復習：消化・吸収、眼、鼻腔、皮膚、直腸・肛門に関する領域、薬理学を再学習する。</p> <p>3. 教科書の該当箇所を読み、整理した基礎知識を「自己学習ノート」にまとめる。</p> <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 注射器の取り扱い方 2. 配布した資料をもとに教科書の該当箇所を復習し、ポートフォリオにまとめる。 3. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 | 分 |
| 8 | <p>【与薬・輸血を安全に行う技術②】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義： 注射の援助技術</p> <p>演習： <ul style="list-style-type: none"> ・アンプルカットと薬液吸引 ・バイアル内の薬剤溶解方法と吸引 ・ルートセッティング ・静脈内持続点滴 ・輸液管理 </p> | <p>・講義：テキストとスライドを使用し説明を行う。</p> <p>・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2名一組となり、「アンプルカットと薬液吸引、バイアル内の薬剤溶解と薬剤吸引」「ルートとセッティングと静脈内持続点滴」「輸液管理」を、演習記録に基づいて実施し、その後代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> | <p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習課題に取り組む 2. 前回の授業の資料をはじめ、該当箇所を読み、ポートフォリオの振り返り、および加筆を行う。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 輸液管理に必要な計算問題に取り組む 4. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。 | 【予習・復習】90分 |
| 9 | <p>【与薬・輸血を安全に行う技術③】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (講義：隅田由加里／演習：隅田由加里、看護学科助教員)</p> <p>講義： <ul style="list-style-type: none"> ・皮下注射、筋肉注射の基礎知識 </p> <p>演習： <ul style="list-style-type: none"> ・皮下注射、筋肉注射の援助技術の実施 </p> | <p>・講義：テキストとスライドによる説明を行う。</p> <p>・演習：AクラスとBクラスに分かれ、学生2名一組となり、「皮下注射と三角筋で行う筋肉注射」「中殿筋で行う筋肉注射」を、演習記録に基づいて実施し、その後代表者が技術を披露し、討議による情報共有を行う。</p> <p>* 皮下注射と筋肉内注射の違いを明確にする</p> | <p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習課題に取り組む 2. 前回の授業の資料をはじめ、該当箇所を読み、ポートフォリオの振り返り、および加筆を行う。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習記録の課題に取り組む、完成した演習記録はポートフォリオに追加する。 2. 該当分野の国家試験過去問題を解いて理解する。 3. 技術が提供できるように、必要な部分を反復練習する。 | 【予習・復習】90分 |
| 10 | <p>【診療関連技術論：実技試験】</p> <p>(隅田由加里、基礎看護学担当全教員)</p> <p>* 指定された看護技術の習熟度を確認する。</p> | <p>事前に配布、説明した実技試験の「実施要領」に則り、科目履修者全員を対象に、指定</p> | <p>【事前の「自主練習」の進め方】1、実技試験の実施要領、患者状況設定、評価表、演習記録を参考に、自主練習に関する諸注意を理解した上で、</p> | 【予習・復習】90分 |

| | | | | |
|---------------|--|----------------------|---|--|
| | | された診療関連技術の実技試験を実施する。 | 積極的・自主的に練習に取り組む。 2. 必要に応じて、自ら積極的に教員の助言を求める。 【実技試験終了後の課題】 1. 実技評価表により実施した技術を自己評価する。 | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |
| 理解に必要な予備知識や技能 | この単元は医師の代行役割を含む、診療に関連する看護技術提供の学習となります。そのため看護形態機能学Ⅰ・Ⅱの復習が必要となります。また疾病学各論、薬理学、看護のための臨床検査などの単元と関連させながら学習を深めてください。さらに看護技術提供時の医療安全として、事故防止対策や感染防止対策の知識も必要となってきますので、生活援助技術論で学んだ感染予防の再学習も行ってください。そして日頃から医療に関するニュースやトピックスには関心をもち続け、必要時はそれらのニュースを読んでください。 | | | |
| テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・「系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」(医学書院) ・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全(メディカ出版) | | | |

| | |
|-----------------------|--|
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術(メディカ出版) ・基礎看護技術(医学書院) ・深井喜代子編著:基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる(照林社) ・深井喜代子監修:ケア技術のエビデンス(1)(2)実践へのフィードバックで活かす(へるす出版) ・藤本真記子ら監修:看護技術がみえる① 基礎看護技術(メディックメディア) ・佐藤久美ら監修:看護技術がみえる② 臨床看護技術(メディックメディア) ・山口瑞穂子編著:看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術 |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | <p>医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中で看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。診療関連技術論の学習を進めるにあたって、どうしても技術や手順に意識が集中しがちですが、一番大切なのは「なぜそれを行うのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することです。なぜならこのような知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれるからです。まずは「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」という疑問を常にもち、自問自答を重ね解明する努</p> |
| 達成度評価に関するコメント | <p>筆記試験(60%)、ポートフォリオ(10%)、その他(30%)で総合的に評価します。</p> <p>*ポートフォリオは、①初年次セミナーで学んだファイルのまとめ方が活用されているか、②提出期日を遵守したか、③演習記録や自己学習の記載内容の視点で評価します。</p> <p>*「その他」は実技試験(25%)、授業貢献度(5点)で評価します。実技試験は授業の中で課題を提示します。1回目で合格(25%)、再試験合格(15%)、再試験不合格(0%)となります。また授業貢献度は、日々の授業への参加態度、演習後の清掃への参加状況、実技試験に向けた</p> |